

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：25302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520236

研究課題名(和文) 南西諸島における事物起源伝説の調査研究

研究課題名(英文) A Study of Things-origin Legends in the Ryukyu Islands

研究代表者

原田 信之 (HARADA, NOBUYUKI)

新見公立大学・看護学部・教授

研究者番号：60290508

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目標は、南西諸島各地に伝承されてきた事物起源伝説を、南西諸島各地で直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、民間伝承の世界における事物起源伝説の特徴や意味を明らかにすることにある。そのために、平成23年度から平成26年度にかけて、奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている文化叙事伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査した。

研究成果の概要(英文)：In this research, I investigated the things-origin legends in the Ryukyu Islands. Investigation areas are the Amami Islands, Okinawa Islands, Miyako Islands, and Yaeyama Islands. I went to these islands and investigated the things-origin legends. This research was conducted from 2011 to 2014. The substance of the things-origin legends of Ryukyu Islands was clarified by this research.

研究分野：日本文学

キーワード：事物起源伝説 南西諸島 地名起源 祭事起源 奄美諸島 沖縄諸島 宮古諸島 八重山諸島

1. 研究開始当初の背景

本研究と関連する研究領域としては、日本本土の伝説研究の領域と、『おもろさうし』などの文献を中心とした琉球文学研究の領域と、歴史学の立場からの研究の領域がある。文献を中心とした文学研究領域の研究成果と歴史学の立場からの研究成果を積極的に利用しつつ、文献研究とは異なる口承文学研究の立場からの考察を試みる。南西諸島の口承文学の研究は、昔話の採集と記録が中心で、伝説に関しては採集も研究もあまり行われてこなかった。研究代表者原田信之はこの研究課題に密接に関連した研究課題「南西諸島における英雄伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島それぞれに伝承されている主要な英雄伝説の調査を行った。続いて、研究課題「南西諸島における豪族伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている豪族伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査して研究した。続いて、研究課題「南西諸島における文化叙事伝説の調査研究」において、大隅諸島・トカラ列島・奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている文化叙事伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査して研究した。これらの調査をへて研究が深まるにつれ、南西諸島における伝説研究は、事物起源伝説というさらに広い視点から総合的に考察を加えなければ全貌が把握できないことを痛感するようになった。したがって、本研究課題では、奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島の島々のうちこれまで調査できなかった島々の調査を、事物起源伝説にまで範囲を広げて調査研究することを目指した。

2. 研究の目的

南西諸島には多くの島々があり、それぞれの島ごとに独自の文化がある。本研究では、南西諸島全域（九州島と台湾島とのあいだに弧状につらなる島々）を研究対象地域とし、奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島各地で直接聞き取り調査して研究することとした。本研究課題は、南西諸島各地に伝承されてきた事物起源伝説を、奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島各地で直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、南西諸島における事物起源伝説の特徴や意味を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は平成23年度から平成26年度にかけて南西諸島全域での実地調査を行った。各地域の事物起源伝説は、それぞれ独自の個性を持つとともに、それぞれ魅力的な伝説が多数伝承されている。それらの伝説の意味についても、ていねいに考察を加えてゆくことを目指した。平成23年度は、沖縄諸島・宮古諸島および鹿児島県で事物

起源伝説に関する実地調査を行った。沖縄諸島では伊是名島・伊平屋島・野甫島、宮古諸島では宮古島・伊良部島・大神島、鹿児島県では鹿児島市・南さつま市を調査対象地とした。平成24年度は、八重山諸島・沖縄諸島および鹿児島県で事物起源伝説に関する実地調査を行った。八重山諸島では新城島・鳩間島・石垣島、沖縄諸島では津堅島・宜野湾市、鹿児島県では鹿児島市を調査対象地とした。平成25年度は、奄美諸島・沖縄本島・八重山諸島で事物起源伝説に関する実地調査を行った。奄美諸島では諸島・与路島・奄美大島、沖縄本島では国頭村・名護市・那覇市、八重山諸島では石垣島を調査対象地とした。平成26年度は、沖縄本島周辺離島・沖縄本島で事物起源伝説に関する実地調査を行った。沖縄本島周辺離島では伊計島・宮城島・平安座島・浜比嘉島、沖縄本島では今帰仁村・宜野湾市を調査対象地とした。

4. 研究成果

(1) 平成23年度の成果

平成23年度は、沖縄諸島・宮古諸島および鹿児島県で事物起源伝説に関する実地調査を行った。調査は、第1回平成23年8月3日～8月18日沖縄県伊是名島・伊平屋島・野甫島、第2回平成23年9月19日～9月27日沖縄県宮古島の宮古島・伊良部島・大神島、第3回平成24年1月20日～1月23日鹿児島県鹿児島市・南さつま市の計3回行った(総計29日間)。沖縄諸島の伊是名島では、美織所起源伝説(岩名起源)、逆田起源伝説(地名起源)、通水起源伝説(地名起源)、降神島起源伝説(島名起源)などを中心に調査を行った。伊是名島の伝説のうち興味深いのが美織所起源伝説である。伊是名島にあるチジン山の中腹に、美織所(チュラウインジョ)と呼ばれる平らな岩があるが、この岩にはイハヌマチガニ(伊平屋の松金)と伊江島のナカンカリマカト(仲村渠真嘉戸)との悲恋の伝説が語り継がれている。マカトは松金に会うために伊是名島に来て、この岩の上で恋人に贈る手ぬぐいにするための布を織ったというが、二人の恋は悲劇で終わる。現在の沖縄諸島では、広く琉歌「仲村渠節」が歌われており、伊平屋の松金と伊江島のナカンカリマカトとの悲恋の伝説も良く知られている。仲村渠節がいつ頃から歌われていたのかは良くわからないが、屋嘉比朝寄編『屋嘉比工工四』に「仲村渠節」が収載されていることから、少なくとも屋嘉比朝寄が亡くなった1775年以前には歌われていたらしいことがわかる。このことから、少なくとも1700年代の半ば頃、つまり18世紀半ば頃にはマカトをめぐる事件が発生していた可能性が高いと考えられる。美織所と称されている平らな岩の周辺は、かつて伊是名集落の若者たちが集合して遊んだ場所で、主婦や若い娘たちは夏になるとこの岩の上に仮小屋を

建てて布を織ったという。この岩のある場所は、チジン山の中腹に位置する小高い所で、集落から適度に離れ、風が良く通り、見晴らしも良い場所であることから、若者たちの遊び場所や夏季の布織り場所に使われたものと思われる。若者たちの遊び場所でもあり、娘たちの布織り場所でもあったというこの「美織所」と称される「岩」が、マカトの恋物語の由来と結びつけられて伊是名島で語られてきたことは、事物起源伝説の問題を考えるうえで注目される。近年、石垣島で組踊「仲村渠真嘉戸」の台本が発見されたが、このことから、かつてマカトの恋物語が沖縄各地で広く知られていたらしいことがわかる。仲村渠マカトと美織所にまつわる伝説は、事物起源伝説のみならず南西諸島における伝説の伝播の問題等を考える際にも重要なてがかりを与えてくれるものと考えられる。伊平屋島では、無蔵水起源伝説(岩名起源)、田名ウンジャミ起源伝説(祭事起源)、クマヤーガマ起源伝説(洞窟名起源)、屋蔵墓起源伝説(古墓呼称起源)、オランダ墓起源伝説(古墓呼称起源)、神石起源伝説(石名起源)などを中心に調査を行った。野甫島では、野甫ウンジャミ起源伝説(祭事起源)などを中心に調査を行った。伊平屋列島では第一尚氏・第二尚氏各王統の始祖たちにまつわる起源伝説の補足調査を行った。宮古諸島の伊良部島では、比屋地御嶽起源伝説(御嶽起源。アカラトモガネが祭神)、長山御嶽起源伝説(御嶽起源。カネドノが祭神)、通り池起源伝説(池起源。人魚捕獲が原因)、ヌーシ御嶽起源伝説(御嶽起源。美娘玉メガが祭神)、ウプカニ御嶽起源伝説(御嶽起源。玉メガの父母が祭神)などの起源伝説を中心に調査を行った。大神島では、ウプカーヤマ洞窟起源伝説(兄妹始祖)などの起源伝説を中心に調査を行った。鹿児島県では、鹿児島市・南さつま市等で文献調査を行った。さらに、伊是名村ふれあい民俗館・伊平屋村歴史民俗資料館・沖縄県立図書館・鹿児島県立図書館・鹿児島市立図書館ほか、各地図書館・資料館で関連資料を調査研究した。

(2)平成24年度の成果

平成24年度は、沖縄県の八重山諸島・沖縄諸島および鹿児島県鹿児島市で事物起源伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成24年8月8日～8月19日沖縄県八重山諸島の新城島・鳩間島・石垣島、第2回平成24年9月14日～9月23日沖縄本島周辺離島の津堅島・沖縄県宜野湾市、第3回平成25年2月9日～2月10日鹿児島県鹿児島市の計3回行った(総計24日間)。八重山諸島の新城島(竹富町。上地島と下地島があり、下地島は放牧場で住民はいない)では、ニシヌブシヌヤー起源伝説(北の武士の屋敷跡とされる)、パイヌブシヌヤー起源伝説(南の武士の屋敷跡とされる)、タカニク起源伝説(近世の火番盛跡と

される)、クイヌパナ起源伝説(近世の火番盛跡とされる)、パナリ焼き起源伝説(新城島で作られた土器)、アールオガン起源伝説(東御嶽は琉球王府に献じたジュゴンを祀るとされる)、鬼の口石起源伝説(西海岸にある岩は古見の人が来て割ったとされる)、地名カミトウ起源伝説(明和の大津波の時に海亀が畑に上がっていたことに由来するとされる)などを中心に調査を行った。鳩間島(竹富町)では、友利御嶽起源伝説(島建ての人を祀るとされる)、ピナイウガン起源伝説(西表島鬚川より遷祀されたとされる)、中森起源伝説(先島諸島火番盛跡とされる)、アンヌカー起源伝説(東の井戸は牛が見つけたとされる)などを中心に調査を行った。石垣島(石垣市)では、美崎御嶽起源伝説(琉球王府の兵船の安全を祈願)、カミミチ起源伝説(美崎御嶽周辺に存在)などを中心に調査を行った。八重山諸島にも琉球王府に関係するものを含め多くの事物起源伝説が残存していることが確認された。沖縄本島周辺離島の津堅島(うるま市)では、地名津堅起源伝説(キシバシーという人がようやく島に着いて、チキタルチキン 着けたぞ津堅と言ったのが起源)、地名とまり浜起源伝説(キシバシーが島にとまって上陸したのが起源)、マータンコー起源伝説(マータンコーはシヌグ行事。7つの首を持つ大蛇を退治した伝説が起源)、ペークーガマ起源伝説(王の世継ぎ争いで殺されかけた津堅ペークーという人がこの洞に隠れ住んだとされる)、チキンボウ起源伝説(津堅の棒術チキンボウは津堅赤人が津堅ペークーから習ったとされる。津堅赤人には虎退治伝説がある)、アカインコ生誕伝説(放浪のオモロ歌人アカインコは津堅の生まれとされる)、ホートウガー起源伝説(鳩が井戸を見つけたのが起源)、ハカマソー起源伝説(キシバシーの妻がその岩に袴を干したのが起源。岩は戦後消滅)などを中心に調査を行った。また、沖縄国際大学(宜野湾市)で開催された奄美沖縄民間文芸学会2012年度大会で実施された公開シンポジウム「伝承の諸相」において、原田は「説話の視座から 察度王と我如古大主」のテーマで基調報告を行った。鹿児島県では、鹿児島県立図書館で文献調査を行った。さらに、石垣市立図書館・沖縄県立図書館・那覇市立図書館ほかで関連資料を調査研究した。

(3)平成25年度の成果

平成25年度は、鹿児島県奄美諸島の請島・与路島・奄美大島および沖縄県沖縄本島の国頭村・名護市・那覇市、八重山諸島の石垣島で事物起源伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成25年8月8日～8月21日奄美諸島の請島・与路島・奄美大島、第2回平成25年9月5日～9月11日沖縄本島の国頭村・名護市・那覇市、第3回平成25年9月26日～9月30

日八重山諸島石垣島の計3回行った(総計26日間)。奄美諸島の請島(鹿児島県瀬戸内町)では、ノノモリ起源伝説(池地地区のノ口墓伝承)、ミョウチョン岳拝所伝説(池地地区のノ口拝所伝承)、ノノガル起源伝説(ノ口祭事の泉か。池地地区のノ口伝承)、ウケユリ起源伝説(ミョウチョン岳に逃げた美女が百合となった)、ウガミ山拝所伝説(ノ口の拝所か。請阿室地区のノ口伝承)、モリヤマ拝所伝説(請阿室地区のノ口拝所伝承)などを中心に調査を行った。与路島(瀬戸内町)では、三丁鼻由来伝説(かつて遠島された罪人を処刑したとされる海岸絶壁地)、アブリヤ山ノ口墓起源伝説(ノ口墓があるとされる)、オナワ海岸伝説(平家伝説。タイラノムネムシ上陸地とも自刃地とも)、刀研ぎ石起源伝説(平家の武士が刀を研いだ)、オワンディ岩起源伝説(難破したノロがしがみついたという海中岩)、ユンダノツジ天女伝説(天女降臨伝説がある地)、クモディ岩起源伝説(ノ口祭事が行われた岩)、寺小屋跡伝説(流人による寺小屋の伝承)などを中心に調査を行った。奄美諸島の奄美大島(奄美市)では、マルゴモリ淵天女伝説(奄美市名瀬朝戸。天女降臨伝説)、美女ダンネンチョ伝説(奄美市名瀬朝戸。琉球軍に殺された)、ノ口伝説(奄美市名瀬浦上。平有盛神社でノ口祭事があった)などを中心に調査を行った。奄美諸島にも琉球王府や平家伝説に関係するものを含め多くの事物起源伝説が残存していることが確認された。沖縄本島の国頭村奥間(沖縄県国頭村字奥間)では、オクマカンジャー起源伝説(奥間の屋号アガリ家の先祖が起源)、フーチー祝い起源伝説(鍛冶神を祝う祭事)、インツキ屋取起源伝説(オクマカンジャーが尚円をかくまった)、アマンチジ起源伝説(神が降りてきた。山頂にフェーノウドンとニシノウドンという拝所がある)、国頭親方始祖伝説(オクマカンジャーの弟で首里に登った)、ウンジャミ由来伝説(奥間ノロが中心)などを中心に調査を行った。沖縄本島の国頭村桃原(沖縄県国頭村字桃原)では、カニマン神社起源伝説(オクマカンジャーと関係がある)、ターチムイ起源伝説(巨人が土塊をもっこで運んだ。牛森と馬森があったが開発で馬森はなくなった)、インニムイ起源伝説(ターチムイを運んだ巨人が土塊を投げた)、コガネムイ起源伝説(黄金を隠したので夜に光ると伝えられる)、メーアガリ起源伝説(桃原を開拓して最初に住んだ)などを中心に調査を行った。沖縄本島的那覇市では、国頭親方始祖伝説(オクマカンジャーが始祖)などを中心に調査を行った。八重山諸島の石垣島(沖縄県石垣市)では、真乙姥御嶽起源伝説(アカハチ征伐に貢献した真乙姥の墓が御嶽の起源)、カタツムリ墓起源伝説(アカハチの妻古乙姥の墓)などを中心に調査を行った。石垣島の伝承で興味深いのがカタツムリ墓起源伝説である。かつて真乙姥御嶽の片隅にツダミ(カタツムリの

意)墓と称される墓があったが、その墓はオヤケアカハチの妻古乙姥のものであった。アカハチは琉球王府の反逆者とされて1500年に討伐された(オヤケアカハチの乱)。アカハチ討伐に協力した長田大主の妹であった真乙姥と古乙姥は、オヤケアカハチの乱後、琉球王府から真反対の対応を受けた。琉球王府に貢献が認められた真乙姥は高く評価されて尚真王から永良比金という神職を授けられたが、古乙姥は逆賊の妻として誅殺された。古乙姥は兄長田大主に命じられてアカハチと政略結婚させられたが、兄や王府の意向に背き、アカハチの妻として誅殺される道を選んだという。長田大主は逆賊の墓として真乙姥御嶽隅の道のそばに骨を埋め、人々に踏ませたとされる。真乙姥御嶽奥のイビにある真乙姥の墓は石を積みあげて造った立派なものであるが、古乙姥の墓は珊瑚の板を組んだ粗末なもので、ツダミ墓と蔑称された。数百年間にわたって粗雑な扱いを受けた古乙姥の墓をアカハチが活躍した大浜に移転しようとする動きは、第二次世界大戦後によく始まり、1970年に大浜の崎原公園に移された。古乙姥にまつわる伝説は、事物起源伝説のみならず琉球王朝の先島諸島統治をめぐる問題や南西諸島における英雄伝説の問題等を考える際にも重要なてがかりを与えてくれるものと考えられる。実地調査のほか、鹿児島県立奄美図書館・沖縄県立図書館・那覇市立中央図書館・名護市立中央図書館などで関連資料を調査研究した。

(4)平成26年度の成果

平成26年度は、沖縄本島周辺離島の伊計島・宮城島・平安座島・浜比嘉島、沖縄本島今帰仁村等で事物起源伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第1回平成26年8月7日~18日沖縄本島周辺離島の伊計島・宮城島・平安座島・浜比嘉島、第2回平成26年9月4日~10日沖縄本島の今帰仁村、第3回平成26年9月16日~24日沖縄本島宜野湾市の計3回行った(総計28日間)。沖縄諸島の伊計島(沖縄県うるま市)では、インナガー起源伝説(犬那川は早魃の時に犬が発見した井泉とされる)、ウシヌカー起源伝説(岩の形が牛に似ているためとされる)、地名イチクマバマ起源伝説(イチクマヌハーメーという人に由来)などを中心に調査を行った。沖縄諸島の宮城島(沖縄県うるま市)では、泊グスク起源伝説(タルガニが作った)、川端イッパー伝説(泊グスク城主で、伊計グスク勢と戦った)、ティランヒチャ起源伝説(川端イッパーの墓)、宮城イッパー伝説(強力伝説)、マカトとハニチリ起源伝説(地名ハニチリに美人マカトが葬られた)などを中心に調査を行った。沖縄諸島の平安座島(沖縄県うるま市)では、平安座ハッターラー石起源伝説(力持ち平安座ハッターラーの煙草盆だった)、平安座西グスク・東グスク起源伝説(アマワリ時代の城か)

伊是名墓起源伝説（平安座西グスクの主を葬るとされる）などを中心に調査を行った。沖縄諸島の浜比嘉島（沖縄県うるま市）では、シルミチュー洞由来伝説（降臨したシルミキヨが住んだ）・アマミチュー岩由来伝説（シルミチュー・アマミチュー夫婦の墓）、ヤマトンチュ墓由来伝説（遭難した日本人の墓）、シヌグ由来伝説（武士を守ったことに由来）などを中心に調査を行った。沖縄県今帰仁村今泊地区では、宝剣千代金丸伝説（千代金丸は、北山が滅ぼされた時、北山王が城内の守護神とされる岩を切りつけた宝剣とされ、後日、志慶真川末のミジパイという所で発見されたとされる）、今帰仁グスク落城伝説（中山の尚巴志が攻めてきた際、軍船は志慶真川を上っていった）、受剣石伝説（北山王が切りつけたとされる岩。グスク内のテンチジアマチジという拝所にあったとされるが、盗まれて現在はない）、本部平原伝説（私利私欲の人で北山王を裏切った）、志慶真村移転伝説（1609年に薩摩が攻めて来た後、城の下に移転させられた）、シナグスク伝説（築城する際、半月雨・半月旱魃で居住に適さない地ということで、シナグスクを止め今の地に今帰仁城を造った）などを中心に調査を行った。今帰仁村諸志地区では、地名伝説シゲマムイ（今帰仁城内にある地名で、移転前に志慶真村があった場所）、志慶真乙樽（シゲマオトダル）伝説（非常な美人であったため北山王の側室として城に入った）、乙樽洗髪地伝説（乙樽が洗髪した地）、志慶真乙樽の墓伝説（今泊の志慶真川沿いに墓がある）、地名伝説トーシングムイ（唐の船が停泊した地）などを中心に調査を行った。今帰仁村にある今帰仁城（グスク）は、2000年に登録された世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の9つの資産の1つで、北山王が築造したとされている。14世紀初～15世紀初、沖縄に北山・中山・南山という三つの小国家が鼎立していた三山時代に北山の主城として栄えたが、1416年（応永23）中山の尚巴志により滅ぼされた。今帰仁は三山時代に北山の中心として栄えた地であることから、北山関係の伝説が多く伝えられていた。宜野湾市では沖縄国際大学附属図書館等で文献調査を行うとともに、2014年度奄美沖縄民間文芸学会大会に参加した。さらに、沖縄県立図書館・那覇市立中央図書館・うるま市立中央図書館などで関連資料を調査研究した。

(5) 研究の達成度と今後の展望

本研究課題の当初研究目的の達成度についての自己点検評価は、「当初の計画以上に進展している」である。その理由は、本項目に主要な成果を記した通り、当初の計画以上に調査研究が進展したためである。本研究では特に、南西諸島全域の事物起源伝説について実地調査を行うことを目指したわけであるが、奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重

山諸島それぞれに独自の事物起源伝説が伝承されていることが明らかになった。調査により、多くの貴重な事物起源伝説を採集することができたが、調査に行く前の段階では知り得なかった貴重な伝説が伝承されていることを新たに発見することも多く、極めて興味深い研究成果が得られた。これまで、南西諸島全域の事物起源伝説について本研究ほど広範かつ詳細に調査研究したものはなく、本研究の成果を今後の伝説研究の進展に生かしてゆきたい。今後の研究の展望としては、本研究課題での計画が順調に進捗したことから、南西諸島における伝説研究をさらに深化させるために、自然説明伝説という視点からの調査研究を行うことを予定している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計7件)

原田信之、：鹿兒島県喜界島の源為朝伝説、新見公立大学紀要、査読有、32、2011、235-247

原田信之、沖縄でのフィールドワーク 多良間島の事例から、昔話 研究と資料（日本昔話学会）、査読有、40、2012、91-102

原田信之、大和国三輪の玄賓僧都伝説、立命館文学、査読有、630、2013、227-235

原田信之、沖縄県石垣島のカツムリ墓起源伝説、新見公立大学紀要、査読有、34、2013、163-176

原田信之、沖縄県伊是名島の美織所伝説、新見公立大学紀要、査読有、35、2014、166-177

原田信之、察度王と我如古大主 説話の視座から、奄美沖縄民間文芸学（奄美沖縄民間文芸学会）、査読有、13、2014、3-20

原田信之、中世散文および隣接諸学の動向、文学・語学（全国大学国語国文学会）、査読有、210、2014、62-65

〔学会発表〕(計6件)

原田信之、沖縄でのフィールドワーク 多良間島の事例から、平成23年度日本昔話学会大会公開シンポジウム「フィールドワークの可能性」基調報告、2011・7・3、静岡文化芸術大学（浜松市）

原田信之、奈良県桜井市の玄賓僧都伝説、備北人文科学学会第27回学術集会、2012・7・30、新見公立大学（新見市）

原田信之、説話の視座から 察度王と我如古大主、平成24年度奄美沖縄民間文芸学会大会公開シンポジウム「伝承の諸相」基調報告、2012・9・22、沖縄国際大学（宜野湾市）

原田信之、岡山県高梁市落合町の玄賓僧都伝説、岡山民俗学会2月例会、2013・2・2、幸町図書館（岡山市）

原田信之、沖縄県石垣島の蝸牛墓起源伝説、備北人文科学学会第29回学術集会、2013・8・5、新見公立大学（新見市）

原田信之、大和国玄賓庵と備中国湯川寺、

備北人文科学学会第 31 回学術集会、2014・8・
5、新見公立大学(新見市)

〔図書〕(計 1 件)

原田信之、大和国軽寺の軽大臣創立伝説と
灯台鬼説話、福田晃・中前正志編、磯 水絵、
松田宣史、他 9 名、唱導文学研究第 8 集、三
弥井書店、2011、157-185

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原田 信之 (HARADA NOBUYUKI)
新見公立大学・看護学部・教授
研究者番号：6 0 2 9 0 5 0 8

(2) 研究分担者

なし()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし()

研究者番号：